

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

ふるさと納税で助け合い

福島市立信夫中学校

3年 小林 優美

先日、熊本地震が発生した。私はテレビなどの情報網から被災地への募金を求める声を多く見た。その中で近年開始された「ふるさと納税」を利用することでも被災地を支援することができることを知った。以前テレビでふるさと納税についての番組を目にしたことがあったが、見返りを求めて納税をする人が多い印象を受けた。そこで私は、今回の震災に対するふるさと納税を通じた寄付は、果たして集まるのだろうかという疑問を持った。

被災地への納税は、他の地域で送られる肉や魚などといった、礼品目当てでないことが大前提であり、礼状も被災地の負担を増やさないために求めない、といった心構えが必要になってくる。

被災地を直接支援することができるという点で、ふるさと納税による寄付をしようという動きが高まる中、見返りが無いのに本当に集まるのだろうか、と私はその時心のどこかで思っていた。

実際にふるさと納税による熊本地震の被災地へ、寄付金がどれほど集まったのか、調べてはみたがその情報を知ることはできなかった。しかし東日本大震災では、昨年(2011年)の全国寄付総額の6倍以上の寄付があったという。このことからおそらく、熊本地震においてもたくさんの方の寄付が集まったと考えられる。

これらのことを知り、私は忘れないでほしいと思ったことがあった。それは「被災地」とテレビなどで取り上げられる地域以外にも、地震による被害はあるということだ。東日本大震災では、テレビなどで頻りに東北地方が散り上げられていたように思う。しかし当然ながら、被害があったのは東北地方だけではないのだ。もちろん関東地方などにも、少

なからず被害があったはずなのである。確かに津波などの影響で、被害が大きかったのは東北地方だと認識されがちだ。だが、取り上げられる被災地だけにとらわれて、周りの地域への意識が薄くなってしまうということは、あってはならないと思う。災害時ならなおさらである。

熊本地震の被災地では、今もなお地震の爪痕は消えていないと思う。5年前の東日本大震災の復旧・復興ですらまだ完全に終わったわけではないからだ。

ふるさと納税をするのなら、やはり礼品が貰える地域を選ぶことはとても普通なことだと思う。単純に礼品を貰えると嬉しいからだ。

ただ、「礼品を貰えるから」ではなく「その地域を応援したいから」という考えで、ふるさと納税を利用してほしいと私は思う。

今はまだ私が利用することはできないが、将来、住んでいる所から遠い所にも、ふるさと納税を通して寄附をしてみたいと思った。

今後、よりふるさと納税が利用され、人々が助け合い、誰もが持つそれぞれのふるさとが発展していくことを期待する。